

1. 令和6年（2024年）8月6日午後2時

豊中市教育委員会会議を豊中市庄内コラボセンター多目的室に招集する。

2. 本日の出席委員等

教 育 長	岩 元	義 継
教育長職務代理者	山 野	佳世子
委 員	松 本	裕 美
委 員	黒 田	久美子

3. 本日の議事日程

第1	議事録署名委員の指名について
第2	前回議事録の承認について
第3	教育長等の報告について
第4（報告第11号）	専決処分の報告について
第5（報告第12号）	専決処分の報告について
第6（議案第33号）	令和7年度（2025年度）使用中学校用教科用図書の採択について
第7（議案第34号）	教育長による臨時代理について

4. 本日の出席事務局職員

事務局 長	長 坂	吉 忠
教育政策 監	中 尾	栄 一
理 事	堤	昌 子
次長兼教育総務課長	田 上	淳 也
次長兼教職員課長	森 山	幸 雄
教育総務課長補佐	松 村	有
学校教育課長	花 山	司
学校教育課副主幹	松 野	恵 子
学校教育課教育課程係長	石 走	海 景
学校教育課主査	内 田	淳 也

5. 本日の書記

教育総務課総務係長	南	幸 太
教育総務課主査	外 園	博 人
教育総務課事務職員	塩 塚	明 良

— 議 事 —

岩元教育長

ただいまから教育委員会会議を開催いたします。

まず、本日の教育委員会会議の進行について教育委員の皆様にお諮りします。

会議時間の短縮のため、本日の会議の進行については、議事日程の朗読や議案等の朗読は省略したいと思いますがお異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、本日の教育委員会会議の進行につきましては、議事日程の朗読や議案の朗読は省略させていただきます。

本日の会議の成立要件をご報告ください。

南書記

本日は、赤尾委員と堀田委員がご欠席ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、教育長及び在任委員の過半数が出席されていますので、本日の会議は有効に成立していることを報告いたします。

岩元教育長

本日の議事日程については、議案書の1ページに記載のとおりです。

黒田委員

動議を提出いたします。

日程第4及び日程第5の2案件につきましては、人事行政の公正かつ適切な執行の確保とプライバシー保護を要する案件であることから、秘密会で審議することの動議を提出いたします。また、このことに伴いまして、議事運営を効率的に行うため、全4案件の議事の順序を、日程第6、日程第7、日程第4、日程第5の順序で行うよう議事順序の変更動議を提出いたします。

岩元教育長

ただいま、黒田委員より日程第4及び日程第5の2案件について、秘密会で審議すること、また、議事運営を効率的に行うため、全4案件の議事の順序についての変更動議が提出されましたが、この件についてご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

ご異議がないので、日程第4及び日程第5の2案件について秘密会で審議すること、また、議事運営を効率的に行うため、変更動議のとおり議事順序を変更することを決定いたします。

それでは、秘密会に属する案件に関するものを除き、議案書等を閲覧用として傍聴人に配布してください。

(事務局より配付)

岩元教育長

日程第1・「議事録署名委員の指名」につきましては、今回は山野委員と黒田委員にお願いいたします。

日程第2・「前回議事録の承認」につきましては、既に会議録を委員の皆様方に配付しております。また、署名委員のご署名をいただいておりますので、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

ご異議がないので、前回議事録の承認につきまして、原案のとおり承認することいたします。

続きまして、日程第3・「教育長等の報告について」を議題といたします。

長坂事務局長

私から夏季休業中における活動について報告いたします。

市立小中学校及び義務教育学校は7月20日より夏休みの期間に入りましたが、この期間におけるこれまでの活動について報告いたします。

まずは、学校プール開放事業でございます。

水と親しむ機会としまして、通学されている各小学校のプールを会場として事業者へ委託し、学校施設でプール事業を行っている小学校及び庄内さくら学園で実施いたしました。

実施日程は、各小学校を前期日程と後期日程とに区分し、土を除き前期日程の学校は、7月22日から7月26日まで、後期日程の学校は、7月29日から8月2日までといたしました。

一部、暑さ指数(WBGT)が「31(危険)」となるなど、途中で事業を中止した学校もありましたが、概ね順調に事業を進めることができました。

次に、夏季休業中の部活動についてです。

7月21日に近畿地方において梅雨が明けたと推測されるとの气象台からの発表がされ、それ以後真夏の暑さが継続しております。夏季の部活動・試合等において熱中症事故が懸念されることから、週2回以上の休養日(ノークラブデイ)の設定及び1日の活動時間については3時間程度とすることとした部活動方針の基準を再周知しております。

また、日々の部活動においては活動前、活動中、終了後にこまめに水分や塩分を補給し、休憩を取るよう呼びかけるとともに、生徒への健康観察など健康管理を徹底するなどの事故防止対策を講じております。

なお、「熱中症予防のための運動指針」等を踏まえ、各学校の熱中症計において暑さ指数(WBGT)が「31(危険)」となった場合は、運動を中止して健康観察を行うよう周知しております。

加えて、事務局においても環境省の熱中症予防情報サイトにおいて、暑さ指数予測値に基づき発表される熱中症警戒アラートや熱中症特別警戒アラートが「大阪」に発表された場合には、各市立学校に対しその旨を連絡するとともに、運動の一旦中止や児童生徒の健康状態の確認など、今一度、熱中症対策を徹底できているか確認するよう促すなど、熱中症の予防に努めているところです。

岩元教育長

ただいまの報告について、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

(ありませんの声あり)

岩元教育長

それでは、特にないようですので、日程第3・「教育長等の報告について」を終了することにいたします。

続きまして、日程第6・議案第33号・「令和7年度（2025年度）使用中学校用教科用図書の採択について」を議題といたします。

本件につきましては、4月16日の教育委員会会議における議決を経まして、豊中市学校教科用図書選定委員会に諮問をいたし、7月31日付で答申を頂きました。

その答申をふまえ、教育委員会として令和7年度使用教科用図書の採択を進めてまいります。

それでは、採択に入ります前に、諮問から答申に至るまでの経過や答申の概要について事務局から説明をお願いいたします。

堤理事

それでは、諮問から答申までの経過等についてご説明いたします。

議案書の8ページから30ページをご覧ください。

教育委員会から5月1日に諮問を受け、7月31日の答申に至るまでの選定委員会の審議経過につきまして、ご報告させていただきます。

選定委員会においては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第10条の規定により大阪府教育委員会からの指導・助言・援助を受けるとともに、本年4月17日付、大阪府教育委員会教育長からの「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の基本事項」を踏まえ、令和7年度に使用する中学校用教科用図書の選定についての調査審議が進められました。

なお、選定委員会の委員につきましては、豊中市学校教科用図書選定委員会規則に基づき、保護者代表2名、保護者公募委員1名、中学校の校長及び教頭各2名、中学校の教諭4名、教育委員会事務局職員3名の計14名で組織されました。

5月13日には、教科用図書に係る審議を行う第1回の選定委員会が開催され、委員長・副委員長の選出、調査員の人数の決定、調査員が行う調査内容、調査員から直接、調査結果の概要を聴取する報告会の持ち方、答申資料の作成手順などの審議が行われるとともに、調査についての報告書が定められました。

報告書は、大阪府教育委員会の「教科用図書選定資料」を参考に、項目及び観点を定め、それぞれ「特にすぐれている」「すぐれている」「その他」の3段階で評価することとされました。

調査員につきましては、中学校等の校長、教頭、及び教諭並びに教育委員会事務局職員のうちから、選定委員会の委員長が任命いたしました。答申資料の作成手順や調査員から直接、調査結果の概要を聴取する報告会の持ち方などにつきまして審議が行われました。

調査員は、5月22日より調査活動を開始し、6月21日に報告書の提出がございました。

7月1日に行われました第2回及び7月4日に行われました第3回の選定委員会につきましては、調査員の報告会として開催され、調査に関わる概要、見本本に対する評価に関わる説明、さらに総合的に見て豊中の生徒にとって、より適切と思われる教科用図書などの点につきまして報告が行われました。

第4回、第5回の選定委員会におきましては、それぞれ7月16日及び7月26日に開催され、調査員の報告書の集計や報告会での意見をもとに、また、各学校ならびに豊中市立学校教育認定研究会からの所見なども参考にして、答申作成のための審議が行われ、7月31日付の答申となった次第でございます。

答申作成に関わる審議といたしましては、原則として6つの観点を定め、審議をすすめる中で、豊中の生徒にとって、より適切と思われる点について発行者ごとに評価が行われました。

6つの観点とは、一つめが学習指導要領の目標達成のために内容が適切か、二つめは学習指導が有効に進められるよう適切に配列がなされているか、三つめは人権的な配慮があるか、四つめは見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶことができる工夫があるか、五つめは補充的な学習・発展的な学習についての視点があるか、六つめとしまして、学習指導を効果的に進められるよう適切な分量になっているか、を設定し審議が進められました。

次に、選定委員会における審議の結果及び答申の内容について、ご説明させていただきます。選定委員会として、先ほど申しあげました観点からの審議に基づき、全ての発行者において、特に優れていると思われる点などをまとめ、総合所見として掲載されております。また、各発行者の評価を踏まえ、総合的に検討された結果、特に高く評価されたものに二重丸(◎)、次いで評価されましたものに丸(○)が付けられております。

なお、教科書センターの法定展示は、6月14日から7月3日まで開催され、6月17日から7月5日までの法定外の展示期間も含めると、来場者数は263名でございました。来場者からいただきましたアンケートにつきましては、あらかじめ教育長及び教育委員会委員のみなさまに供覧させていただいております。

以上、諮問から答申に至るまでの経緯及び答申の概要等につきまして、ご説明を終わらせていただきます。

岩元教育長

ただいまの説明につきまして、何かご質問、ご意見等はございますでしょうか。

(ありませんの声あり)

岩元教育長

それでは、種目ごとに教科用図書の採択に入りたいと思います。なお、議案書の29ページに発行者一覧と、その略称を掲載しておりますが、略称で議論させていただくことといたします。

まず、それぞれの種目ごとに答申の概要をご説明いただき、一種目ごとに採択してまいりたいと思います。

では、はじめに「国語」について説明をお願いします。

堤理事

議案書の11ページ、31ページ及び32ページをご覧ください。

国語は4者ございます。

国語における選定の項目・観点としましては、内容の程度としまして、「国語科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、学び方の工夫としまして「言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、4者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「三省堂」がより高く評価されました。

岩元教育長

ただいまのご説明について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

松本委員

私は「三省堂」が大変分かりやすいと感じました。全ての学年大項目が同じで、例えば、分かりやすく伝えるという点で見ますと、1年生が説明文の基本構造、2年生が説明の論理展開、3年生が批判的な読みということで、3年間ステップ感を持って積み重ねることができ、分かりやすいと思います。

また、その全ての資料に手紙とはがきとメールの書き方が全学年添付されていて、今は書く手紙よりも、メールのやり取りも多くなってきているので、日常的なところでも使えるかと思います。

それぞれ様々な工夫がされていて、いい教科書と思いますが、その中でも「三省堂」は他よりいいと感じました。

黒田委員

どの教科書も大変面白いものが多く載っていましたが、私も「三省堂」がいいと思いました。例えば、「奥の細道」はどの者にも載っていましたが、「三省堂」は地図と絵がマッチングして興味を持つことができると思いました。あとは、日本語の慣用句と英語の慣用句との違いとか、最近流行りの歌の歌詞が載っているとか。やはり、国語も言葉も時代とともに変わっており、それに合わせて新しいものも載っている点は非常にいいと感じました。

あとは、デジタルの漢字ドリルは大変やりやすく楽しいと感じました。そのため、私は「三省堂」を推させていただきます。

山野委員

学習指導要領に沿って、言語活動を通して、理解及び表現をするような項目について、どの教科書もしっかり工夫されていたと思います。特に、どの教科書も領域別の教材一覧があり、どのような目的を持ってどの単元を行うかということが、どの者も非常に分かりやすく掲載されていたと思います。

その中で私も「三省堂」が、子どもたちにとって大事なところの「読むこと」と「書くこと」へつなげる思考の方法がいいと思いました。また、道標という観点では、1年生だったら44ページのところで、序論から始まり、続いて本論、最後は結論というように、読み方の最初にこのような説明文の基本構造があるため、非常に分かりやすいです。そのため、「三省堂」が子どもたちにとってはいいのではないかと思います。

岩元教育長

私も「三省堂」、「光村」がどちらもいいと思いました。国語は子どもたちが身近に学びを感じ、頭に入っていきやすくなるような工夫がどの者もされていたと思いますが、「三省堂」は3年生の教科書で、新海誠さんのアニメ映画が取り上げられており、子どもたちにとって非常に頭に入っていきやすいと感じました。また、今人気絶頂のYOASOBIの歌詞が出ていたり、子どもたちにとって分かりやすい工夫があったと感じました。

「光村」は「言葉と私」というコラムが3年生の最後のほうのページにありましたが、例えば、谷川俊太郎さん、米津玄師さん、オリンピックに出ている池江璃花子さんの言葉についての短いコラムが掲載されていて、子どもたちが興味をもてる内容になっていると思います。また、「光村」においては、論語のページがあり、他の教科書は古典の括りで紹介されておりますが、「光村」については古典の括りではなく、生活に活かしたいとか自分を励ます言葉とか友達に送りたい言葉を見つけようという視点で取り上げられており、大変いい視点で取り上げられていると感じたところです。

本日欠席されておりますが、赤尾委員のご意見が出ておりますので、事務局から紹介してください。

堤理事

冒頭にチャート図などの思考の方法が示されている。QRコードが豊富である。説明文などにも重きを置いている。これらのことから、「三省堂」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、国語については「三省堂」がより適切であると思われまので、「三省堂」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、国語については、「三省堂」を採択いたします。

続きまして、書写について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の12ページ及び32ページから34ページまでをご覧ください。

書写は4者ございます。

書写における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度として「国語科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」、学び方の工夫としまして「書写に関する事項について工夫がなされているか」などが定められ、審議が行われました。

総合的な審議の結果、4者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから「光村」がより高く評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「書写」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

黒田委員

それぞれ分かりやすいですが私が違うと思ったところは、毛筆の筆運びについて比較させていただきましたが、そこで見やすかったのが、「東書」と「光村」です。特に筆運びの順番や筆の大きさ、角度も大変分かりやすかったです。あとは、「光村」に関しては付属の書写ブックにおいて、硬筆についてももしっかり力を入れていると感じました。また、よいと思った点は動画です。動画内容として、漢字の分解とか、行書にするときにどのように成り立つのか等があり面白く、私は「光村」がよいと思いました。

松本委員

私も「東書」と「光村」で大変迷っています。「東書」は書写活用ブックがあり、これは本当に日常生活でも使えて、ベースになる知識が詰め込まれているように感じました。実物大の見本の落とし込みもあり、分かりやすいと感じました。「光村」は、QRコードも充実しており、毛筆も大変分かりやすかったです。また、コラムを見ても、その文字の歴史が分かりやすくなっているため、なかなか甲乙つけ難いと感じています。

山野委員

私も「東書」と「光村」で迷いました。「東書」は、巻末の書写ブックに筆遣い等のいろいろな発展的な内容が盛り込まれていました。「光村」は、書写で学んだ内容と国語との連携ができるような工夫があったと思いました。書写の指導要領の中に、国語の目標を達成することができるという文言があり、国語との連携を彷彿させるような内容がありました。迷いましたが、「光村」のほうがいいと思いました。

岩元教育長

私も「光村」が一番いいと感じました。筆運びの表現が分かりやすく、その動画も充実していると感じました。また、別冊の書写ブックは硬筆の練習ができるもので、書くことの練習量が、しっかり確保できるという意味でよいと思いました。

また、今はメールやLINEを使って文字を打つことが多いですが、「手書きのよさって、何だろう」という内容が掲載されていて、そのような面も評価が高いと感じました。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

やや厚みがあるが、文字の大きさや配列がよい。年賀状の書き方などの記載もある。このことから、「光村」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、書写につきましては、「光村」がより適切であると思われるので、「光村」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、書写については、「光村」を採択いたします。

続きまして、社会（地理的分野）について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の13ページ及び34ページ、35ページをご覧ください。

社会（地理的分野）は、4者ございます。

社会（地理的分野）における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度としまして「地理的分野の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、学び方の工夫としまして「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、4者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「日文」がより高く評価され、次いで「教出」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「社会（地理的分野）」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

黒田委員

「教出」に千里ニュータウンが載っていることは、豊中の子どもたちには興味深いところと感じましたが、私は「日文」がいいと感じております。

例えば、「日文」の42ページにあるような、「学んだことから推理ゲーム」はこの答えを直接出すのではなく、みんなで話し合っただけで考え、答えを出していくという流れが非常に工夫されていて面白いと感じました。

松本委員

私は「教出」、「東書」、「日文」で迷っております。同じ内容を掲載する中で、どう見せるかというところを各者工夫されております。私の個人的な好みですが、「教出」の見せ方が大変分かりやすいと感じました。問題提起から知識の広がり展開されており、地理の窓やクロスロード等が発展的思考につながりやすいと感じました。ある意味、好みと教え易さというところから選んでいただくのがいいと思いつつも、個人的には「教出」が分かりやすいと感じました。しかし、「東書」と「日文」も捨て難いと感じております。

山野委員

私も「教出」と「日文」で迷っていました。「教出」はシンプルな構成で、クロスロードのような社会参画の意識があるような内容とか、気候や農業、工業のように順序立てた構成になっているところが、子どもたちにとってわかりやすいと思います。

「日文」は、章末にゲームがあり、子どもたちが自分で考えていく、楽しみながら学ぶというところと、217ページに生徒同士が議論して、お互いに学び合いができるような内容がある点がいいと思います。グループでの議論、学び合いを通して、自分たちの問題として振り返ることができるため、「日文」がいいと思います。

岩元教育長

私は「東書」、「教出」、「日文」はいいところがあると感じました。

「東書」は、それぞれの土地の暮らしを紹介しております。例えば、36ページの雪と氷の中で暮らす人々、38ページの寒暖の差が激しい土地に暮らす人々、40ページの温暖な土地に暮らす人々というように、気候を分類し、それぞれの暮らしを紹介していて、工夫されていると感じました。

「教出」は、いろいろな現代的な課題を取り上げた短いコラムが数多く取り上げられており、充実していると感じました。その中で、千里ニュータウンも掲載されており、豊中の子どもたちにとっては身近に感じられる内容であると思いました。

「日文」は、各章の最初に、例えばヨーロッパ州やアフリカ州の非常に魅力的なインパクトのある写真が使われており、子どもたちがその写真を見た瞬間にどんなところだろうと行きたくなる、興味が惹かれるような工夫がされていると感じました。

また、1ページに「地理を学ぶにあたって」という説明書きがあります。これは何のために地理を学ぶかを、地球の情報集と位置付けて、様々なことを学び、細部を見たい、広い目で見たいといった地理の興味を惹くような内容が書かれており、導入としては非常によいと感じました。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

「日文」はシンキングツールや気候クイズなどのゲームが記載されている。「教出」は各章にまとめがあり、振り返りのコーナーが丁寧である。2者ともに、グローバルから視点を絞っていき、地域の学習へとつなげているところがよい。どちらもよいが、「日文」をより評価する。

以上です。

岩元教育長

意見が「日文」と「教出」とで分散しておりますが、総合いたしますと、今回の教育委員会の答申では、「日文」を最も評価しているおり、また、皆様のご意見を聞いても総合的に見ると、やはり「日文」が推薦されていると感じたところです。

つきましては、ご意見を総合しまして、社会（地理的分野）につきましては、「日文」がより適切であると思われますので、「日文」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

（異議なしの声あり）

岩元教育長

それでは、社会（地理的分野）については、「日文」を採択いたします。

続きまして、社会（歴史的分野）について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の14ページ、15ページ及び36ページから39ページまでをご覧ください。

社会（歴史的分野）は、9者ございます。

社会（歴史的部分野）における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度としまして「歴史的分野の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」、補充的な学習・発展的な学習としまして「学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるよう配慮されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、9者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「日文」がより高く評価され、次いで「東書」・「帝国」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「社会（歴史的分野）」について、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

松本委員

私は「東書」と「日文」でだいぶ迷いましたが、「日文」がいいと思いました。歴史は日本史や世界史がある中で、今自分が学んでいることはどこの地域のどの時代かが、割と混乱してしまうことがあると思いますが、年表が各ページの右端にきちんと入っているということと、各章の始めと終わりに年表と地図が出ていて、最初のページは小学校で学んだことのまとめと一緒に掲載され、終わりは、振り返りとしてより詳しい情報が掲載されていることから、これから何を学んで、どこの地域のどういう時代の事柄であるかが分かりやすく配列されていると感じました。また、チャレンジ歴史について、歴史を掘り下げる観点から発展的な学びにもつながっていると思いました。

「東書」も年表がついており、大変分かりやすく工夫されていると感じましたが、全体的に見ると「日文」の方がより分かりやすく学びやすいと感じました。

黒田委員

資料や全体の見やすさで、私は「東書」、「帝国」、「日文」が見やすいと感じました。実際、デジタルの箇所を見ましたが、「日文」の小テストが非常に楽しく可愛くやりやすいです。自分の経験から、歴史は初めにつまずいて苦手意識を持つ人が多い分野であると思うので、中学生のうちに興味を持っておいてほしいと思いました。その点、私ならこの教科書であれば非常に興味を持てたのではないかと感じまして、「日文」がいいと思いました。

山野委員

私も「東書」と「日文」で迷いました。どちらもデジタルコンテンツは多いですし、世界遺産の関連を分かりやすく対比させているところもよかったです。「日文」のほうが、学ぶ前に推測するようなページがあり、そして、章ごとに必ずまとめと振り返りがあります。最初に推測したことが、学習が終わった後にどのようなふうに変化するのか読み取れるということへの配慮もありました。

特に世界史との対比が非常に分かりやすい表となっていたので、どちらかというところ「日文」だと思っております。

岩元教育長

私も「東書」と「日文」がいいと思いました。歴史の分野は比較的情報量が多いです。これをどのように整理して分かりやすく表現するかは、レイアウトやデザインの

力が大きいと思いますが、やはり、「東書」の教科書は読みやすいと感じたところです。

また、ほかの者でもありましたが、本文の右端に年表があつて、これは横幅を活かしたデザインです。そのような意味でも、この本は使いやすいのではないかと感じています。

「日文」は、こちらもほぼ全てのページの右側に年表があり、分かりやすくなっていることは「東書」と同じと感じました。また、時代を追うごとに日本の部落差別についての記述がしっかりと述べられているところであるとか、アイヌ民族のこと、また、沖縄の琉球からの歴史についてといったことも書き込みがしっかりされています。また、戦時中のそのときの体験者の言葉も、いわゆる国民の視点、市民の視点から書かれている点もいいと感じており、全体に平和とか人権を大切に、指導されていると感じました。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

ダイヤモンドランキングなど、生徒に考えさせるコーナーが多いことから、「日文」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「社会（歴史的分野）」については「日文」がより適切であると思われるので、「日文」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

（異議なしの声あり）

岩元教育長

それでは、「社会（歴史的分野）」については、「日文」を採択いたします。
続きまして、「社会（公民的分野）」について、説明をお願いいたします。

堤理事

議案書の16ページ、17ページ及び39ページから41ページまでをご覧ください。

「社会（公民的分野）」は6者ございます。

「社会（公民的分野）」における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度としまして、「公民的分野の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」、学び方の工夫としまして「地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、6者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「帝国」がより高く評価され、次いで「東書」・「教出」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「社会（公民的分野）」について、ご意見・ご質問はございますでしょうか。

黒田委員

私は「帝国」と「教出」が見やすいと思います。中でも、私は「帝国」が一番いいと思います。例えば、フェイクニュースのことや選挙のこと、テレビニュースのことも非常に見やすい。子ども目線で読みやすいものになっていると感じました。

例えば、128ページに18歳への準備がありますが、具体的に実際18歳になるともう選挙とか、あとは契約の話、これらは自分事として大変身近なところで考えることができるような書き方をされていて、子どもにも考えてほしいと保護者としても思う内容でした。

松本委員

私は「帝国」と「東書」で悩みました。どちらも人権と歴史と地理とつなげた形でいろいろ考えて書いていただいていると思いますが、歴史のつながりが、特に人権において「帝国」が大変分かりやすく書かれていると思いました。また、国際社会のあたりでも、地理と関連させた記載が大変分かりやすいと思いましたので、どちらかという「帝国」と思いました。

山野委員

私は「教出」と「帝国」で迷いました。「教出」は項目が細分化されており、自分で学習しやすい構成になっている。

「帝国」は学習内容が問い形式になっており、こちらも生徒が見通しを持って自分のこととして考えるような内容になっております。地域への関与につきましても、両者とも年代や課題とか、人権に配慮した内容が多く載っております。見やすさという観点では、生徒の興味が向くように、大きなイラストの挿入や学習前後のイラストがリンクしている点があります。以上を踏まえて、私は「帝国」がよいと思いました。

岩元教育長

私も「東書」、「教出」、「帝国」が甲乙つけ難いと思っています。どの者もそれぞれよさがあると感じたところです。「東書」と「教出」はそれぞれ学びを広げるコラム的なものが豊富であると感じました。

また、「帝国」はイラストによる導入があり、子どもたちにとって内容が入りやすいのではないかと思います。また、本質的な課題として、例えばジェンダーギャップの国際比較であるとか、フェイクニュースであるとか、そのようなところの書き込みがよくできていると感じました。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

思考ツールを使って学習を視覚化することができる。また、「マンションの騒音問題を考えよう」など、生活の中にある具体的なテーマを考えるコーナーがあり、生きて働く知識を養うことができる。これらのことから「帝国」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「社会（公民的分野）」については「帝国」がより適切であると思われるので、「帝国」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

（異議なしの声あり）

岩元教育長

それでは、「社会（公民的分野）」については、「帝国」を採択いたします。
続きまして、「地図」について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の17ページ及び41ページ、42ページをご覧ください。

地図は、2者ございます。

地図における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度としまして「各分野の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」、学びの工夫としまして「様々な社会的事象の特色や意味について、生徒の考える力や考えたことを表現する力を育てるよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、2者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「帝国」がより高く評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「地図」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

松本委員

私は「帝国」がいいと思いました。データの新鮮さや、世界地図において同緯度・同縮尺の日本が所々に掲載されており、日本はこの国と比べてどの辺りにあるかが分かりやすいと思いました。これにより、世界を見ながら日本を見るという視点もあると思いましたので、「帝国」がいいと思います。

黒田委員

私も「帝国」がいいと思います。データ量やイラストが多く敷き詰められて、見やすくまとまっているため、長い間見ていられると感じました。見ていると次々新たな発見が起こりそう、新たな知識や興味が広がりそうな、そのようなわくわくする地図帳であると感じました。

山野委員

私も「帝国」がいいと思います。やはり見やすいことと、データが新しいことと、資料が豊富にあることから、「帝国」がいいと思います。

岩元教育長

私も「帝国」がいいと思いました。「帝国」の日本地図は、陸地の高さを色分けされていることに加えて、土地利用の状況、市街地なのか農地なのか畑なのか果樹園なのかといったことを、異なる色で表現されております。これらの地図に掲載しているデータ量が非常に多いため、詳細な状況が分かるようになっているということ。また、QRコードを用いたインターネットコンテンツが豊富であるといったことから「帝国」がよいと感じました。

赤尾委員のご意見はどうでしょうか。

堤理事

データが新しいことから、「帝国」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「地図」については「帝国」がより適切であると思われまますので、「帝国」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、「地図」については、「帝国」を採択いたします。

続きまして、「数学」について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の18ページ、19ページ及び42ページから44ページまでをご覧ください。

数学につきましては、7者ございます。

数学における、選定の項目・観点といたしては、内容の程度としまして「数学科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、7者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「東書」がより高く評価され、次いで「大日本」・「啓林館」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「数学」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

松本委員

私は「東書」と「啓林館」で迷いましたが、どちらかというところ、「東書」がよいと思いました。

会話の吹き出しが各所にあり、それがアクセントになって分かりやすいと思います。また、巻頭に「math connect」の項目があり、数学とは単に数字だけではなく、社会にどのようなつながっているのかが大きな視点で分かる仕掛けができていると感じ、導入として興味を惹くと思いました。

二次方程式の単元を各者比べましたが、いろいろな解き方があり、今学習していることがどのような解き方で行っているのかが、その項目を大変分かりやすく表題で示していると感じました。他の教科書にも表題はあるのですが、「東書」は表題の示し方が非常に分かりやすいと思いました。

「啓林館」はキャラクター「ふわりん」の小さなコメントが各所にあり、それが大変効きます。各所のポイントをキュッと掴んだような感じがしており、その一言で「ああ、そうか」と納得できるようなコメントが魅力的であると感じました。

ただ、「東書」と「啓林館」を比べると、「東書」がよいと感じています。

黒田委員

私も「東書」と「啓林館」を見ておりました。私が重視するのは見やすさです。数学は記号が多く、それにより混乱してしまい頭に何も入ってこなくなるようなイメージがあります。そのため、私はとにかく見やすさを重視しており、「東書」と「啓林館」の2つが見やすいと思いました。

例えば、「東書」の栄養士のコラムは面白かったですし、「啓林館」のケーキの切り方の工夫の動画や絵がいいと思いました。また、「啓林館」の円周率のコラムも大変面白く書いてあります。その辺りも気に入っておりまして、この2者のどちらかと思っております。

山野委員

私も「東書」と「啓林館」の両方で迷っております。

「東書」は、算数から数学の接続が丁寧で、見開きで取り組みやすいと感じました。また、「東書」は人権的な配慮の観点から、男女を分けていないため、興味深いと思いました。

「啓林館」は、データの活用や理解のしやすさを意識した構成、イラストの入れ方といった点が見やすく、分かりやすいと思いました。

岩元教育長

私も「東書」、「啓林館」がそれぞれいいと感じました。

「東書」は、1年生の教科書では、栄養士の仕事の紹介が書かれています。それ以外でも、仕事と数学をつなぐというような、日常生活と数学との関係について興味深く書いておられたと思います。また、巻末の数学の自由研究は素数の話、蜂の巣の形の話などを数学的な視点から考えるような、大変面白く興味惹かれるテーマであると感じています。

「啓林館」は、様々なデジタルコンテンツがありますが、QRコードに書かれている説明書きが非常に丁寧で、何を見ることができるのか、説明書きを見ればすぐ分かるというところはいいと思います。さらに、やはり社会的な課題・問題として、琵琶湖の水位を数学的なところから考えるとか、犬の年齢と人間の年齢の比較とか、そのようなことを数学的に捉えるという点も面白いと感じたところです。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

「数学の自由研究」は発展学習につなぐことができる。また、各章に挿絵があり、日常の事象から数学の学習を始めることができる。これらのことから、「東書」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「数学」については「東書」がより適切であると思われるので、「東書」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、「数学」については、「東書」を採択いたします。

続きまして、「理科」について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の19ページ、20ページ及び45ページ、46ページをご覧ください。

理科につきましては、5者ございます。

理科における、選定の項目・観点といたしては、内容の程度としまして「理科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、人権の取扱いとしまして「生徒の安全について適切に取り扱われているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、5者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「啓林館」がより高く評価され、次いで「東書」・「学図」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「理科」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

黒田委員

私は、「啓林館」がいいと思います。写真、入り方が非常にきれいで、読みやすいものになっていると感じ、子どもたちも興味を持ちやすいのではないかと思います。

松本委員

若干迷いはありますが、「啓林館」がいいと思います。選定委員会が丸（○）をつけた「東書」、「学図」も非常に魅力があると思いつつも、「啓林館」がよいと思います。

例えば、1年生の実験において、実験の直前までが別冊で説明されているところがあります。「学図」は別冊の補充資料になっていると感じまして、それだけを見ればすごく分かりやすいです。ただ、「啓林館」はその実験をする前に、器具の説明・安全の説明があります。教科書どおりに進んでいたら、これに注意して実験に入ろうという流れが分かりやすいと感じました。また、観察の場合は目的・方法・結果・考察、実験の場合は課題・仮説・計画・結果・考察と記載があり、その思考の流れを分かり

やすく導いているため、子どもたちは学ぶ上で、それらが身につけやすいのではないかと思います。

山野委員

私も「東書」と「啓林館」で比べました。「東書」は、応用的な思考ができるような点があり、そこが魅力的だと思いました。

「啓林館」は安全配慮についてかなり丁寧に書いてあり、子どもたちへの指導の面で非常に分かりやすいと思います。探究のところは疑問、課題、仮説、さらに計画、結果、考察で、そのプロセスがはっきりしており分かりやすいと思いました。また、写真や図の構成が、「啓林館」のほうが子どもたちの目を惹くというか、インパクトがあると感じました。

岩元教育長

私は「啓林館」と「東書」がどちらもいいと思いましたが、どちらかといえば、「啓林館」だと思います。非常に印象的な写真が効果的に使われているため、視覚的に分かりやすいと思います。実験での安全において、ここは危ないという箇所の表示の分かりやすさでは、「啓林館」が一番よいと思います。3年生の教科書では、生卵とゆで卵を割らずに区別する実験もあり、興味深いユニークなテーマが非常にいいと感じました。

「東書」は理科といろいろな仕事をつなぐ記事があり、よいと思いました。例えば、宇宙飛行士の山崎直子さんや、建築家の方の話など、また、理科と社会をつなぐという意味でのテーマの記事があり、非常によかったと思いました。

しかし、どちらかというところ「啓林館」がよかったと思いました。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

「啓林館」は安全への配慮があり、実験には解説が記載されている。また、探Qシートを活用して、学んだことを可視化させることができる。「東書」は確かめ問題がよい。2者ともよいが、「啓林館」をより評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「理科」については「啓林館」がより適切であると思われるので、「啓林館」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、「理科」につきましては、「啓林館」を採択いたします。
長時間になりますので、ここで一旦休憩したいと思います。

(休 憩)

岩元教育長

会議を再開します。
次に、「音楽（一般）」について説明を事務局よりお願いします。

堤理事

議案書の21ページ及び47ページをご覧ください。
音楽（一般）は2者でございます。

音楽（一般）における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度としまして「音楽科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、各領域や分野の関連を図りながら、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、学び方の工夫としまして「音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、2者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「教芸」がより高く評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「音楽（一般）」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

黒田委員

私は「教芸」がよいと思います。よいと思った点が2点あります。1点目は14ページでマイボイス「自分の歌声を見つけよう」という箇所があり、声が出る仕組みを非常に分かりやすく書いてあります。それと一緒に、変声期のことについても書いてあります。変声期に無理に声を出そうとしないとか、そのようなことが書いてあり、魅力的だなと感じました。

2点目は、デジタルコンテンツです。私が昔、音楽を習っていた際は、楽譜を用いて作曲しておりましたが、今のアーティストはデジタルで、タブレットで作曲されます。その点、デジタルコンテンツを用いて、指先で簡単にポンポン操作でき、そういう感覚で音楽をつくるというのが、今のデジタルの社会ではいいと思い、可能性を感じました。

松本委員

私も「教芸」がいいと思いました。なかなか中学生では日本の古典芸能に接することは少ないと思いますが、「教芸」を用いた授業を通して、日本の能楽や歌舞伎などの古典芸能の中で、音楽にも違いがあるということを知り、ここから興味を持っていくような生徒がいるといいのではないかと思います。そのように興味を広げていくという点で「教芸」がいいと思いました。

山野委員

私は2者を比べて、「教芸」がいいと思いました。こちらは創作のコンテンツが多く、それを歌ったり、演奏したりいろいろあります。その部分について「教芸」のほうが、いろいろな可能性が広がるのではないかと思います。教科書の本文の対話的に考えた解説や日本文化の補足というところ、意見交換・発表等という観点で「教芸」がいいと思います。

岩元教育長

私も「教芸」がいいと思います。実際にそのデジタルコンテンツを使って、簡単に音楽をつくることができるということは、その操作自体を楽しみにして、作曲することができると思いました。また、デジタルコンテンツにおいて、教科書に掲載されている様々な音楽をいろいろな形で聴くことができます。このようなコンテンツの充実具合でいうと、「教芸」のほうが見やすいと感じました。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

感じ取ったことを書かせるコーナーがある。また、「マイメロディ」を活用した作曲では、分かりやすく、意欲的に学習することができる。これらのことから、「教芸」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「音楽（一般）」については「教芸」がより適切であると思われまので、「教芸」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、「音楽（一般）」については、「教芸」を採択いたします。

続きまして、「音楽（器楽合奏）」について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の21ページ及び48ページをご覧ください。

音楽（器楽合奏）は2者でございます。

音楽（器楽合奏）における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度としまして「音楽科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、各領域や分野の関連を図りながら、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、学び方の工夫としまして「音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、2者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「教芸」がより高く評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「音楽（器楽合奏）」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

松本委員

「教芸」と「教出」のどちらもいろいろな楽器の写真、演奏の仕方があり面白いですが、どちらかというと「教芸」であると思います。特にギターの指の位置を、演奏する側から見た指の形で掲載されており、見やすいと思いました。

黒田委員

私も「教芸」がいいと思います。ギターの指の位置は、本によっても書き方が違ってきます。演奏する人によって、どちらの記載が見やすいか違うため、両方掲載されている点が魅力的であると思いました。また、掲載されている音楽は、笑点のテーマ、魔女の宅急便、美女と野獣等、なかなか身近なものが「教芸」のほうが少し多いと思いました。そのため、「教芸」がいいと思います。

山野委員

私も「教芸」のほうがいいと思いました。ギターの指使いが自分のほうからということで見やすいと思います。どちらも楽しいテーマ音楽や楽器の紹介があり、見ていて大変楽しいですが、実際、演奏する際は、「教芸」のほうが子どもたちにとって分かりやすいのではないかと思います。

岩元教育長

私も「教芸」のほうがいいと思いました。音楽（一般）と重なりますが、QRコンテンツが充実していることに加え、ギターのコードの説明書きは「教芸」のほうがよいと思います。また、伴奏や練習音の出し方などの基本的な説明書きがQRコードで書いてあり、そのQRコードを読み込むとどのような動画を見ることができるのかが分かりやすいという点が、非常にいいと感じました。

また、笑点のテーマや魔女の宅急便などが取り上げられており、子どもたちにとって身近に感じられるのではないかと思います。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

総合的に「教芸」を評価する。

以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「音楽（器楽合奏）」については「教芸」がより適切であると思われますので、「教芸」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

（異議なしの声あり）

岩元教育長

それでは、「音楽（器楽合奏）」については、「教芸」を採択いたします。
続きまして、「美術」について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の22ページ及び49ページ、50ページをご覧ください。

美術は3社でございます。

美術における、選定の項目・観点といたしましては、内容の程度といたしまして「美術科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、作品例、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、3者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「日文」がより高く評価され、次いで「光村」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました「美術」について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

松本委員

私は「光村」と「日文」でかなり迷いましたが、どちらかというところ、私の個人的な感覚としては「光村」です。「光村」は表現と鑑賞を双方向から見ているところがあると感じました。創作が生まれる過程というか、ピカソは何をきっかけにそのようなゲルニカの絵を描いたかということについて、そのタイミング、きっかけが非常に分かりやすく、そのような切り口は大変いいと思いました。

ただ、「日文」は、美術から社会に広がる視点が、非常に分かるように作られていると感じました。道具を使う人の立場で考える等、そのような視点もあり、それは非常にいいと思いました。非常に迷いましたが、個人的には、ゲルニカの点に少し惹かれるところがありました。

黒田委員

私は「開隆堂」の表紙を見たときに、この教科用図書の触り心地やデザインに一目惚れしました。内容で言いますと、私も「光村」や「日文」を見ておりまして、どれも一番はまりそうなアニメをテーマに、そこからの発展的な内容を載せるなど、いろいろな工夫がされており、そのあたりも非常に面白かったです。動画編集もどこも掲載されていますし面白い。特に「日文」の「表現をする」こととか、「360度作品を見ることができる」こととかも面白く、「光村」か「日文」のどちらかではないかと思います。

山野委員

私も最初、教科用図書を見たときに、表紙に惹かれたのは「開隆堂」でした。そこから、内容を見ていくうちに、「光村」と「日文」のどちらかがいいと思いました。

「光村」の特徴として、アニメーションの手法が結構詳しく掲載されており、子どもたちの興味を惹くと思います。また、ゲルニカの箇所では、和紙を貼って違う肌触りの紙質を用いることで、いろいろな鑑賞方法・学習内容があるというような点が特徴的だと思います。「日文」は、学びを支える資料である、巻末部分がすごくいいと思いました。ここを見て、いろいろな発展的なことを考えたり、社会に美術がどのようにリンクするかを考えたりという、イメージがしやすいと思います。加えて、「日文」には、身近な生徒の作品が随所に載っていたので、それも近い年代の子どもたちがこのような作品を描いている、作っているということが分かるきっかけになると思いました。最終的には「日文」が一步リードしていると思います。

岩元教育長

私も「光村」と「日文」がいいと思いました。

「日文」は生徒の作品が多い印象を受けまして、「同じ年代の生徒がこのようなすごい作品をつくるのか」という、いい刺激を受けて創作意欲を掻き立てられるようなところがあるのではないかと思います。また、いろいろな美術作品が作品集のようにきれいに配置されているため、作品の魅力を最大限に活かすようなレイアウトとい

いますか、見せ方になる。そこから、子どもたちが美術に引き込まれていくのではと感じました。

「光村」は、1年生の初めの箇所、どのように美術作品を見ればよいのかとか、何をどのように表現すればよいのかというようなアプローチをされております。これはある意味、教科書として学びやすいような構成になっているのではないかと感じました。また、1年生の最後のほうでは、「木と親しむ暮らし」という内容で、生活に密着したものを美術の視点で見るということは大変意義のあることであると感じました。どちらか甲乙つけ難いというのが私の印象です。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

社会とのつながりが分かりやすい。また、既存の技術を超えていくことにチャレンジしており、発展的な思考を促している。これらのことから、「日文」を評価する。以上です。

岩元教育長

ご意見を総合しますと、「美術」については「日文」がより適切であると思われるので、「日文」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、美術につきましては、「日文」を採択いたします。
続きまして、「保健体育」について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の22ページ、23ページ及び50ページ、51ページをご覧ください。
保健体育につきましては、4者ございます。

保健体育における選定の項目・観点といたしては、内容の程度として「保健体育科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各分野・各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、学び方の

工夫としまして「体育や保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、4者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「大修館」がより高く評価され、次いで「東書」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました保健体育について、ご質問・ご意見ございますでしょうか。

松本委員

「東書」と「大修館」で迷いましたが、どちらかというところ「大修館」と考えました。「東書」は、巻末にスキルブックがあり、よくまとまって、ここを見れば分かるという感じになっており、「大修館」は、特集資料のところ随所にちりばめており、使いやすいかというのは好みもあるとは思いますが、「大修館」のほうが「ストレスと心」というところで、相談先が巻末とかではなく、同じページに書かれているということや、今、中・高校生の中で問題化しやすいスマートフォンやネットの問題が随所にちりばめられているというところ、見やすさ、取りつきやすさなど何か生徒本人の助けになるようなものがあると思いました。中学生は大変心身ともに発達していく段階なので、心身とも悩みも多くなってくるので、そのことについての工夫は本当にそれぞれうまくされていると思っています。好みの問題、見やすさの問題というところで、私としては「大修館」がいいと思いました。

黒田委員

「大修館」と「大日本」のどちらかと思っていましたが、読みやすさや中学生が悩むところをきちんと網羅していますが、最後の解剖学のところも丁寧で必要なところが見やすくまとまっているというイメージを持ったのが、「大修館」であったのと、あとはQRや振り返りをクイズ形式で進めていくのですが、大変やりやすくコンパクトにまとまっていてよかったです。

山野委員

中学生の成長段階に合わせた様々な課題が取り上げられていて、どの者とも工夫されて折り込まれていると思いました。その中で「大修館」が小・中・高校の学びのつながりができているのと、右下のQRコードによりクイズ形式で確認でき、習ってい

るときに一人ではなく、その場で見て確認することができることや、性の多様性など発達の課題など、その辺りは一番丁寧であると思います。

岩元教育長

私も「大修館」が一番いいと思いました。結構、保健体育はページによって各者大変小さい字で資料がちりばめてあり、情報量をかなり増やしておられると思いますが、本文を見開きの中央に寄せてあって、非常に読みやすい、全体としてスッキリしたレイアウトになっていると感じました。

山野委員からもお話がありましたように、性についても古典的な考え方でなく、性的マイノリティのことに触れられていたり、また巻頭のところに、ダウン症の書家の作品に触れて掲載されていますし、また、はるな愛さんのコメント等で「いじめられているあなたへ 絶対に居場所がある」と、子どもたちに訴えかけるような内容があり、全体として多様性を尊重していると「大修館」では感じたところです。

赤尾委員のご意見はいかがでしょうか。

堤理事

性的マイノリティについて詳細な記載があることから、「大修館」を評価する。以上です。

岩元教育長

それでは、ご意見を総合しますと、保健体育につきましては、「大修館」がより適切であると思われますので、「大修館」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、保健体育につきましては、「大修館」を採択いたします。
続きまして、「技術・家庭（技術分野）」の説明をお願いいたします。

堤理事

議案書23ページ、24ページ及び52ページをご覧ください。
技術・家庭（技術分野）は3者ございます。

技術・家庭（技術分野）における、選定の項目・観点といたしては、内容の程度としまして「技術分野の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」、学び方の工夫としまして「技術の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、3者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「東書」がより高く評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました技術・家庭（技術分野）について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

松本委員

私は、「東書」が分かりやすいと思いました。「教図」のスキルアシストという別冊も魅力的でしたが、全体的に見て「東書」がいいと思いました。

まず、内容的に見開きがいいところと、どのようにして技術が生まれたのかというところ、社会からの要求とか環境への負荷がどうかという安全性・経済性、要請からこのように生まれてきて発展していったということが分かりやすく、あと情報モラルであるとか、あるいは発電方法というところで、メリット・デメリットを対比して書かれているというところで、ここを取ればこっちが取れないとかいう、何を優先させてこのような技術が生まれていったのかということも分かりやすいと思っています。

黒田委員

どの者も大人が読んでも面白いと思いますが、「東書」は情報量も多いですが、大変まとまっていて、読んでいても読みやすいと感じました。ページの右にきちんと色分けで章も記載しているのです。これもページをめくったときに見やすくするための工夫だと思いましたし、全体的に見やすく、まとまっている印象の「東書」がいいと思いました。

山野委員

私も「東書」が見やすいと思いました。文字とかイラストとか全体的に見やすく使いやすいのと、QRコードのコンテンツも分かりやすいのと、やはり松本委員もおっ

しゃっていましたが、何でどうして技術という科目を学んでいくのか、見方とか考え方が最初にガイダンス的なところであって、子どもたちがそのような視点で学習を進められるのではないかと思いました。

岩元教育長

私も「東書」が一番いいと感じました。導入部分のところで結構分量を取っていて、分かりやすく丁寧であり、また、QRコンテンツの動画の部分で、技術でいうと実際の作業的なことをしっかり動画で見るというところについて、やはりコンテンツが豊富であるということは重要であると感じたところです。また、プログラミングに関して巻末のところで、かなり充実した内容が書かれていると思いました。以上のことから、私は「東書」がいいと思いました。

赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

技術の進化がとても分かりやすく、またsociety 5.0につなげている。これらのことから、「東書」を評価する。

以上です。

岩元教育長

それでは、総合いたしますと、技術家庭（技術分野）につきましては、「東書」がより適切であると思われまますので、「東書」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

（異議なしの声あり）

岩元教育長

それでは、技術・家庭（技術分野）については、「東書」を採択します。
続きまして、技術・家庭（家庭分野）について、説明をお願いします。

堤理事

議案書の24ページ、25ページ及び53ページをご覧ください。
技術・家庭（家庭分野）につきましては、3者となります。

技術・家庭（家庭分野）における、選定の項目・観点といたしては、内容の程度として「家庭分野の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、学び方の工夫としまして「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、3者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「東書」がより高く評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました技術・家庭（家庭分野）について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

黒田委員

私は「東書」と「開隆堂」のどちらかと思いました。

調理のところなどがこの2者とも分かりやすかったです。「開隆堂」は読むと大変面白かったです。例えば調理の失敗例が載っていたり、知恵袋的なことなども面白く、情報が多かったので、その辺り楽しさがあるって、好みで言うと「開隆堂」がいいと思いました。

全体的な見やすさでいえば、「東書」はまとまっていると思いました。

松本委員

私も「東書」が分かりやすいと思いました。まず、最初の大きなテーマとして「自立と共生」というところに切り口を持っていっているところが、単に今まで親にやってもらっていたことを自分がしないといけないのかということより、もっと視野を広げて自分のために、そして共生のためにというところから入っていくということで、視野が大きく広がるような感じがしました。

あと、最後のところでも写真と図の両方を載せていて、目で見て分かりやすさを感じましたし、家族の共生ということが、衣・食・住を学んだ後にまとめとして出てきているので、多角的な視点からもう一回家族を考え直そうということで、幼児も最後に出てきていて、全体的に見て自分事として、自分がどうだったのかという視点も持ちながら、幼児の生活を見ていけるという構成が掴みやすくなっていると感じています。

山野委員

まず組立て自体、3者で順番が違うということを感じました。見やすさからいうと、絵と文字のフォントとか調理のところ、先ほど黒田委員もおっしゃっていましたが、イラストとか写真の配色とか構成が大変見やすくできているというのは「開隆堂」です。

「開隆堂」の家族家庭生活の中で、今の变化する家族関係というところを取り上げているのがいいと思いました。「東書」は割と既存のよくある今までの形が多いのですが、変化しているところあたりを載せているのが、「開隆堂」なので、そこが一つの魅力であると思いました。

岩元教育長

私も「東書」がいいのではないかと思います。内容そのものが非常に整理されて見やすいといったこともありますし、デジタルコンテンツの動画についても数が多く、充実していて分かりやすいと思いました。

また、最後にスナップ付けの動画がありますが、右利き用、左利き用、両方そろえているという点も配慮されていると思いますし、本文中で色々なプロに聞くというコーナーがあり、実生活の中での家庭とのつながりについて語っているという内容も非常にいいと思ったところです。

それでは、赤尾委員のご意見をお願いします。

堤理事

教科書全体を総合的に考えると、「東書」より高く評価する。「開隆堂」は多様な家族構成を描いており、また、ヤングケアラーについても触れている部分がある。

以上です。

岩元教育長

それでは「開隆堂」がいいという意見もありましたが、全体・総合的に見ますと、技術・家庭（家庭分野）については「東書」がより適切であると思われるので、「東書」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、技術・家庭（家庭分野）については、「東書」を採択いたします。

続きまして、英語について説明をお願いします。

堤理事

議案書の25ページ、26ページ及び54ページから56ページまでをご覧ください。

英語につきましては、6者ございます。

英語における、選定の項目・観点といたしては、内容の程度として「外国語科の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、組織・配列としまして「目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか」、学び方の工夫としまして「英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、6者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「三省堂」がより高く評価され、次いで「東書」・「開隆堂」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました英語について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

黒田委員

「開隆堂」と「三省堂」で検討してみました。初めに例えば「三省堂」は、スターターやサンシャイン、「開隆堂」は、皆で話し合えるような、本当に最初のGet Readyで、英語の授業の会話でコミュニケーションを図れるようなツールが載っているということが魅力的であると思いました。

「三省堂」に関しては、発音チェックなどもQRコードからつなげていたり、デジタルも非常に魅力的であると思いました。

「開隆堂」も単語アプリというのがあり、いろいろ自分に合った学び方ができて、一つの単語アプリの一つの単語からでも4種類を選んで自分の学び方ができるのです。これも大変面白かったと思いますし、文字なども読みやすいと感じたのは「開隆堂」で、その2者がいいと思っております。

松本委員

私も「三省堂」と「開隆堂」で迷ってしまっていて、なかなか結論が出ないと思っています。どの教科書も様々な工夫がされていて、QRコードも取り入れてあって発音の勉強とかもできるようになっていて、「三省堂」のほうが、最後巻末にWhat can I do?というところで、3年間の学習、各学年を振り返っていく積み重ねができていくのではないかと思います。

「開隆堂」についてはQRコードが多く、聞き取りや発音の勉強がよりやりやすいと思いましたが、なかなかどの者が一番いいのか本当に決めかねている状況であります。

山野委員

私も「開隆堂」と「三省堂」で悩んでいました。「開隆堂」の単語アプリは、学習の復習とか家庭学習とかに非常に便利であると思いますし、会話のところで大事な部分に赤いところで文法表現を示すところがあって、そのようなところも授業で子どもたちが見たところ、先にそのことを学ぶということが分かりやすいと思いました。

「三省堂」については、先ほども話がありましたが、発音チェック機能があったり、アニメーションがついていて、色々な動画を見ることができるということもあるのですが、どちらにしても会話がしやすいとか、子どもたちの表現とか、書く課題とか、英語で文章を書いて自分で何かを伝えるといったようなところを教科書としてやりやすいほうがいいと思っています、少し迷っております。

岩元教育長

私も「東書」「開隆堂」「三省堂」で甲乙つけ難いと思いましたが、あえて言うなら「開隆堂」がいいのではないかと思います。

非常に写真やイラストを大きく大胆に使っており、全体的に楽しい雰囲気を出しておられると思います。また、右ページの右端に、今の取組み段階がどこにあるのか、それぞれのプログラムで、どのようなシーンで使うのかというところから始まって、あとはレビュー、アクションというところがあるのですが、今どこの段階なのかということを見てもすぐに分かるようになっているということもあって、非常に分かりやすく進めやすく、見やすいのではないかと思います。

「東書」については、書く練習が割と頻繁に取り上げられていて、文法もですが、非常にそのようなところがいいと思いました。

「三省堂」につきましては、例えば、フードコートでの店内放送や、どのように注文すればいいのか、自分の体調が悪いとき、どのように言うのか、実生活に即し多様な言葉の使い方について取り上げておられたのが、大変分かりやすいと感じたところです。

甲乙つけ難いですが、「開隆堂」がいいのではないかと思います。

赤尾委員の意見も参考に、お願いいたします。

堤理事

「三省堂」の3年生73ページ上段右側の挿絵の説明において、本文中では「公平」という意味で「fairness」が扱われている。中学生にも理解しやすい単語である「fairness」が使用されていると推察されるが、大学の講義等でこの挿絵を扱う際には「fairness」ではなく、同じく「公平」という意味を持つ「equity」というより高度な単語が使われる。「開隆堂」はポスターセッションの進め方等が詳細に記載されている。「開隆堂」を評価する。

以上です。

岩元教育長

今の赤尾委員のご意見の中にあつた「三省堂」の3年生の「fairness」という言葉の取り上げ方で、「公平」について、イラストと文章の内容に少し違和感を持っているということですが、事務局で確認しましたところ、間違いではないということは確認しております。赤尾委員においては、「fairness」という言葉ではなく、「equity」のほうがより適切ではないかということで、そのような意見もあるようですが、検定も通ってきていますし、決して間違っているというのではなく、違和感を感じられたということ为例として述べられたということになっております。

ご意見としまして、「開隆堂」を推す意見、「三省堂」のいいところを述べていただいた意見がございます。教科書選定委員会の答申では「三省堂」を最も評価すると言っていますが、今のご意見でいきますと、「開隆堂」のほうが評価するという部分が大きかったのではないかと思います。答申そのものは、ここで議論をするために我々が意見を聞くものであり、このことは受け止めたいと思いますが、最終的には、この教育委員会会議の中で責任を持って決定していくということになりますので、必ずしも答申どおりに採択しないといけないというのではなく、我々が主体的に議論して決めていけば進んでいくことになります。

英語については、いろいろご意見をいただきましたが、総合しますと、「開隆堂」がより適切であるというようなことで集約できると感じましたので、「開隆堂」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それではつきましては、英語につきましては、「開隆堂」を採択いたします。
続きまして、「道徳」について説明をお願いします。

堤理事

議案書の27ページ、28ページ及び56ページから59ページまでをご覧ください。

「道徳」につきましては、7者ございます。

道徳における、選定の項目・観点といたしては、内容の程度として「道徳教育の目標を達成することができるよう、生徒の発達段階を考慮した内容となっているか」、人権の取扱いとしまして「人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか」、補充的な学習・発展的な学習としまして「様々な価値観について、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、多様な見方や考え方に接しながら、さらに新しい見方や考え方を生み出したりして、よりよく生きる喜びを見いだせるよう配慮されているか」などを定め、審議が行われました。

総合的な審議の結果、7者のうち、豊中の生徒に最も適切な教科用図書ということから、「東書」がより高く評価され、次いで「日文」が評価されました。

岩元教育長

ただいま説明がありました道徳について、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

松本委員

「道徳」も「東書」、「光村」、「日文」、「あか図」でかなり迷っています。

「東書」は、2年生の教科書でイラストの中で同じシーンでいじめられている子を見ながら、自分がどう感じて、見ている子がどう感じているか、色々なパターンが出ていて、自分がこの場にいたら、どのように感じるのだろうか、どうすればいいのだろうかということを深く考えるヒントになるということが印象的でした。

「光村」については、道徳「道案内」で、どのように考えていこうかという道筋がある中で、自分で学ぶプラスというところで発展的にどう考えていこうかということを通こうとしているというところがあり、「日文」については、「五月の風」のミカとカナのところで、同じ事実を別の立場から見たらどのように考えているのだろう、どのように見えるのだろうというところを具体的に示していて、「あか図」については、教材ごとに考えるヒントとして自分を見つめて考えるとか色々な見方で考えるとか、考えるにしてもどのような方向で考えていくのかというヒントになる言葉があったのではないかと思います。

ただ道徳というのは、なかなか人に言われてからというよりも自分の中をどのように掘り下げていくのかというところなので、やはりその子どもによっていろいろあると思うので、その子どもにとっての深掘りができる教材がどれなのかということを選ぶのは難しいと思いつつ、なかなか絞りきれないところでもあります。

黒田委員

道徳も本当に難しく、どの者も魅力的なのですが、まず「教出」に豊中の方が載っていることが私は気にはなりました。子どもたちにもまた身近なことで知ってほしいと思うので魅力は感じたのですが、保護者の視点で子どもに読んでほしい、このようなことをどうやってみんなが考えるのかなと思ったのは「光村」でした。

保護者の方などのアンケートにもありましたが、私もコラム的に入っているものや、スマートフォンの扱いなど、障害を持った子どもの発信のことも魅力的で、ほかの教科よりも、「これでどう思いましたか」というような枠に一番はめたくない教科なのです。そうなったときに、「光村」については、本当に自分たちでこのように考えて色々な思いが広がると思いまして、保護者としては一番読ませたいと思いました。

山野委員

「東書」や「日文」については、経験の浅い先生方が指導というか、授業を進めやすい構成でなっていると思ったので、特別な教科のことなので、評価することを考えると、先生方が目当てをつくるとかリンクしていくのは、この2つがやりやすいのかなと思いました。

ただ、道徳というのは、先ほど他の委員もおっしゃっていましたが、自分を掘り下げたり、決めつけられた価値観を教員が言うものではないので、読んだ者一人ひとりが、現に自分で掘り下げて考えたり、周りの者たちと意見交換して、色々な気づきが

あって、次に事後の自分につなげていくというところまで持ってきてほしいと思うと、私は「光村」がいいと感じました。

岩元教育長

私も「東書」と「光村」がいいと思いました。先ほど松本委員もお話されていましたが、「東書」につきましては、いじめに関わってのイラストの教材が載っていますが「私のせいじゃない」という教材が非常に印象的で「自分をどう考えたらいいのかな」と問われる、それがイラストから伝わってくるというのがすごく感じられました。そのような意味でいじめという現代の社会で子どもたちに一番考えてもらわないといけないところにいい教材を出されていると感じたところです。

また、それぞれの教材の本文の下の欄外につぶやきのコーナーがあり、メモで何でも自由に書けるようなところがあって、その扱いもいいと思いました。

「光村」につきましては、いじめのところでは、外国で取り組まれていて、日本でも一部入ってきています「ピンクシャツデー」であるとか、いじめから少し踏み込んで「いじり」とはどのようなことなのかということが書かれているところがよかったですし、こちらのイラストも漫画ですが、「ゆるす」って何だろうと85ページのところにあり、少し笑える漫画なのですが、でも考えるというイラストで、非常に印象的で、考えるにはいい教材であると思いました。

また、「光村」につきましては、2年生の153ページに「異なり記念日」という教材があり、耳が聞こえないご夫婦の間に生まれた2歳の子どもの話で、実話ですが、お父さんお母さんは聞こえないけど、子どもは聞こえるのです。でも、両親が手話をしているので、日常的に子どもも手話をしているのですが、家族である店に行ったときに2歳の子どものには音楽が聞こえたのですね。「音楽あった、音楽あった」と喜びを両親に伝えていたのですが、両親は聞こえないから分からなかった。「音楽があった」ということは分かっているのですが、お父さんとお母さんは実は聞こえないということをお伝えたら、2歳の子どものは大変悲しい表情をした。でも、後で、両親のほうから、あなたが聞こえるということは大変うれしいことであるし、「みんな一緒ではないのだよ」「違っているのだよ」「それがいいのだよ」というようなことを子どもに伝えて、そのことを受け止めて、「分かった」と、笑顔で返してきたという話ですが、家族というものを考える題材でもありますし、また障がいというアプローチからも考えられる、非常にいい教材であると感じたところです。

赤尾委員のご意見はいかがですか。

堤理事

視覚的な支援やイラストが分かりやすい。また、「問いを立てよう」等、協働的な学びができる。これらのことから、「光村」を評価する。

以上です。

岩元教育長

選定委員会の答申においては、「東書」を最も評価するになっていまして、その次に「日文」ということで、「光村」については、教科書選定委員会の最終の答申の中では入っていないということになります。今各委員からご意見をいただいた中で見ると、「光村」にいい評価をされる声が一番多かったのではないかと感じています。先ほどの「英語」の採択の際でも申し上げましたが、答申は「東書」で手続を踏んできたものではありましたが、最終決定は、教育委員会会議において議論して決定できると思っております。

そのようなことで、道徳につきましては、ほかの者ももちろんいいところは多くありましたが、「光村」のよさを我々は評価して使ってほしいという思いを共有させていただいたと思いますので、道徳につきましては、「光村」を採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、道徳については、「光村」を採択いたします。

以上をもちまして、全ての種目について採択いたしました。

なお、視覚障害がある生徒の教科用図書についてですけれども、採択されました「教科用図書」と同一内容の「拡大教科書」及び「点字教科書」を必要に応じ、学校教育法附則第9条の規定による教科書、いわゆる「一般図書」として採択いたしますのでご了承ください。

それでは、確認のため各種目採択いたしました「教科用図書」を読み上げいたします。

国語は「三省堂」、書写は「光村」、社会（地理的分野）は「日文」、社会（歴史的分野）は「日文」、社会（公民的分野）は「帝国」、地図は「帝国」、数学は「東書」、理科は「啓林館」、音楽（一般）は「教芸」、音楽（器楽合奏）は「教芸」、

美術は「日文」、保健体育は「大修館」、技術・家庭（技術分野）は「東書」、技術・家庭（家庭分野）は「東書」、英語は「開隆堂」、道徳は「光村」です。

以上をもちまして、第6号・議案第33号・「令和7年度（2025年度）使用中学校用教科用図書採択について」審議を終了いたします。

続きまして、日程第7・議案第34号・「教育長による臨時代理について」を議題といたします。

内容の説明をお願いします。

田上次長

議案第34号・教育長による臨時代理につきまして、内容のご説明を申し上げます。議案書の70ページ及び71ページをご覧ください。

本件は、先ほど採択されました中学校及び義務教育学校の後期課程教科用図書の令和8年度から令和10年度までの毎年度の採択を、「教育長に対する事務の委任等に関する規則」第2条第2項の規定に基づき、教育長が臨時に代理できるよう、ご提案するものでございます。

以上ご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

岩元教育長

ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（ありませんの声あり）

岩元教育長

それでは特にないようですので、日程第7・議案第34号・教育長による臨時代理について、原案のとおり決定することにご異議ございませんでしょうか。

（異議なしの声あり）

岩元教育長

ご異議ございませんので、日程第7・議案第34号・教育長による臨時代理について、原案のとおり決定することにいたします。

以上で公開の会議は終わりました。傍聴人の方は、ご退席をお願いいたします。

(傍聴人の退席)